

検査情報月報



横浜市衛生研究所

平成28年11月号 目次

【トピックス】

遺伝子組換え食品の検査	1
-------------------	---

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 10月	3
--------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	7
---------------------	---

遺伝子組換え食品の検査

遺伝子組換え食品は、内閣府に設置された食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され承認された後、国内での製造・輸入・販売などが可能になります。検査は、承認済みのものについては定量検査(食品中に遺伝子組換え体がどのくらい含まれているかを調べる検査)を行います。一方、未承認のものについては定性検査(食品中に遺伝子組換え体が含まれているかを調べる検査)を行います。

平成28年5月と平成28年9月に、各区福祉保健センターが収去した30検体について、遺伝子組換え食品の検査を実施しました。

1 遺伝子組換え大豆(RRS、LLS、RRS2)*1の定量検査

大豆加工品9検体、大豆穀粒1検体について、国内承認済の遺伝子組換え大豆(RRS、LLS、RRS2)の定量検査を行いました。これらの検体について、原材料(大豆)の表示には「遺伝子組換えでない」等の記載がありました(任意表示)。もし、分別生産流通管理*2が実施されていない場合は「遺伝子組換え不分別」等、遺伝子組換え大豆を原材料とした場合は「遺伝子組換え」等の表示が必要です(義務表示)。

定量検査の結果、いずれの検体も混入率は5%以下*3であり、違反検体はありませんでした(表1)。

表1 遺伝子組換え大豆(RRS、LLS、RRS2)の検査結果

品名	原産国	検体数	混入率5%を超える検体
豆腐	日本	9	0
大豆穀粒	日本	1	0
計		10	0

*1 いずれも除草剤耐性を持つ遺伝子を組み込んだ大豆の品種です。日本では、それぞれ平成13年(RRS)、平成14年(LLS)、平成19年(RRS2)に安全性審査を経て承認されています。

*2 遺伝子組換え農作物と非遺伝子組換え農作物を生産・流通・加工の各段階で混入が起こらないよう管理し、そのことが書類等により証明されていることをいいます。

*3 分別生産流通管理が適切に行われた場合でも、遺伝子組換え農作物の一定の混入は避けられないことから、大豆では5%以下の意図せざる混入が認められています。

2 遺伝子組換えコメ(63Btコメ、NNBtコメ、CpTIコメ)*4の定性検査

コメ加工品10検体について、国内未承認の遺伝子組換えコメ(63Btコメ、NNBtコメ、CpTIコメ)の定性検査を行いました。その結果、いずれの検体も不検出で違反検体はありませんでした(表2)。

表2 遺伝子組換えコメ(63Btコメ、NNBtコメ、CpTIコメ)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数	検知不能
麺類(ビーフン、フォー等)	日本(3)、タイ(2)、ベトナム(2)	7	0	0
米粉	日本(2)	2	0	0
ライスペーパー	ベトナム(1)	1	0	0
計		10	0	0

*4 いずれも害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだコメの品種です。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

3 遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10^{*5})の定性検査

トウモロコシ加工品10検体について、国内未承認の遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)の定性検査を行いました。原材料(トウモロコシ)の表示には「遺伝子組換えでない」等の記載がありました(任意表示)。検査の結果、9検体で不検出、1検体(原産国:日本)で検知不能^{*6}となり、違反検体はありませんでした(表3)。

表3 遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数	検知不能
コーンスナック菓子	日本(8)、台湾(1)、ギリシャ(1)	10	0	1
計		10	0	1

^{*5} 除草剤耐性と害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだトウモロコシの品種です。過去にアメリカで安全性審査が行われていない種子が誤って流通し、栽培された事例がありました。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

^{*6} 「検知不能」とは、元々食品が持っている、本来なら遺伝子組換え食品であるかどうかにかかわらず検査で検出されるはずの遺伝子(内在性遺伝子)が不検出であり、検査の判定ができない場合をいいます。この原因として、加熱や加圧等の加工処理中に食品中の遺伝子が分解してしまうことが考えられます。

【 検査研究課 食品添加物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 10月

《今月のトピックス》

- 例年より早い時期にインフルエンザの報告数が増加しています。
- RSウイルス感染症の報告数が急増し、依然として例年より大幅に多い状態が続いています。
- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。

全数把握の対象

【10月期に報告された全数把握疾患】

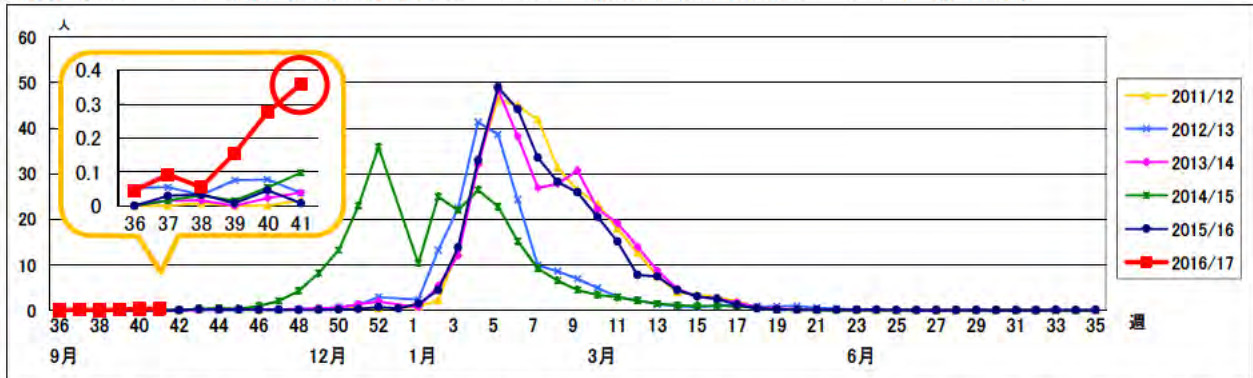
腸管出血性大腸菌感染症	5件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	1件
レジオネラ症	6件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1件	水痘(入院例に限る)	2件
急性脳炎	1件	梅毒	16件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が5件あり、うち3件は無症状病原体保有者でした。
- レジオネラ症: 6件の肺炎型の報告がありました。
- アメーバ赤痢: 2件の報告があり、1件は国外での経口感染が推定され、1件は感染経路等不明でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 1件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 1件の報告があり、病原体不明でした。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: G群が1件報告され、感染経路等不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 同性間の性的接触による無症状病原体保有者の報告が1件ありました。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 1件の報告があり、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 4件の報告があり、いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 水痘(入院例に限る): 臨床診断例が1件、検査診断例が1件報告されています。臨床診断例はワクチン接種歴が確認されましたが、検査診断例はワクチン接種歴が確認できませんでした。
- 梅毒: 16件の報告(無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件)がありました。うち国内の感染が15件、感染地域不明1件でした。感染経路は、同性間性的接触が2件、異性間性的接触が10件、詳細不明の性的接触が2件、感染経路不明が2件でした。
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 1件の報告があり、以前からの保菌と推定されています。

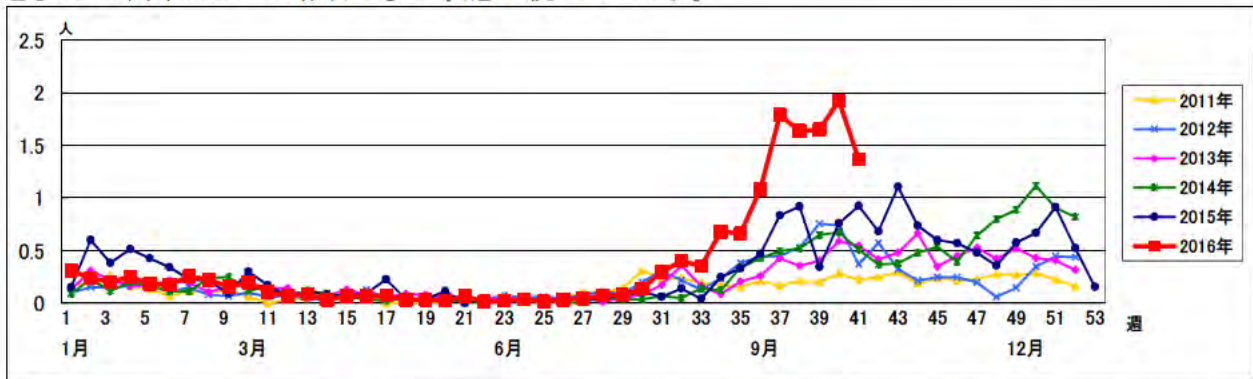
定点把握の対象

平成28年 週一月日対応表	
第39週	9月26日～10月2日
第40週	10月3日～10月9日
第41週	10月10日～10月16日

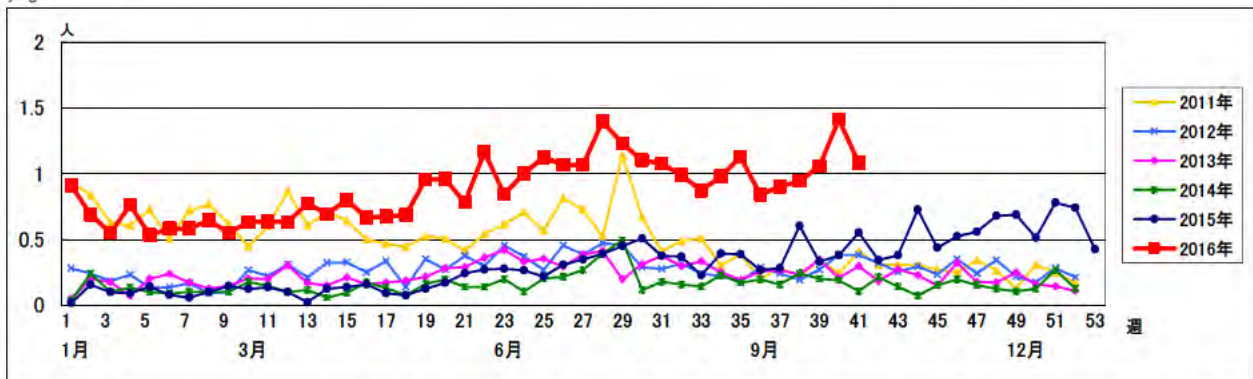
- 1 インフルエンザ: 第39週で定点あたり0.15、第40週で0.28、第41週で0.36と、例年に比べて早期に報告が増加しています。また、第40週で2016/17シーズン初の学級閉鎖の報告がありました(2015/16シーズン、2014/15シーズンは第43週、2013/14シーズンは第50週、2012/13シーズンは第2週)。



- 2 RSウイルス感染症: 第40週までに定点あたり1.92と、例年に比べて急激かつ大幅に増加しており、第41週も1.36と例年に比べて報告が多い状態が続いています。



- 3 流行性耳下腺炎: 第41週で定点あたり1.08と、例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



- 4 性感染症: 9月は、性器クラミジア感染症は男性が29件、女性が20件でした。性器ヘルペス感染症は男性が9件、女性が8件です。尖圭コンジローマは男性8件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が9件、女性が2件でした。
- 5 基幹定点週報: 無菌性髄膜炎は第39週0.25、第40週0.00、第41週0.00と報告されています。マイコプラズマ肺炎は第39週1.00、第40週0.00、第41週3.00と報告されています。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)の報告はありませんでした。
- 6 基幹定点月報: 9月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が8件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症が1件で、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

10月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点40件、内科定点11件、眼科定点11件、基幹定点11件で、定点外医療機関からは5件でした。

11月7日現在、表に示した各種ウイルスの分離株6件と遺伝子34件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(10月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	感 染 性 胃 腸 炎	急 性 脳 炎	そ の 他 症 例
インフルエンザ AH3型			4			1	1	1
パラインフルエンザ 1型	1							
パラインフルエンザ 2型	2							
RS	3	11						
ヒトメタニューモ		1						
ライノ	7	1						2
コクサッキー A 5型					1			
コクサッキー A 6型				2				
コクサッキー B 3型	1							
コクサッキー B 5型	1							
合計	2 13	13	4	2	1	1	1	3

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

10月の感染性胃腸炎は、小児科定点から2件、基幹定点から8件、その他が11件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2が7件、O157:H7,VT1&2が2件、O157:H-,VT1&2が1件、O157:H-,VT2が1件)、サルモネラ(*S. Typhimurium*、*S. Saintpaul*、*S. Infantis*、*S. Virchow*)が検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から4件、基幹定点から4件、その他からが29件でした。その他のA群溶血性レンサ球菌の5株およびG群溶血性レンサ球菌の2株は劇症型溶連菌感染症の患者から検出されました。レジオネラ属菌は4株とも*Legionella pneumophila* 1群、バンコマイシン耐性腸球菌は全て*vanA*遺伝子保有の*Enterococcus faecium*でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(10月)

感染性胃腸炎						
検査年月 定点の区別 件数	10月			2016年1月～10月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌					1	2
腸管出血性大腸菌			11		7	60
腸管毒素原性大腸菌					2	
腸管凝集性大腸菌					2	
チフス菌					2	
サルモネラ	2	3		3	25	2
カンピロバクター						1
黄色ブドウ球菌					1	
NAGビブリオ						1
不検出	0	5	0	0	57	18
その他の感染症						
検査年月 定点の区別 件数	10月			2016年1月～10月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌			1	4		3
T1						
T3				1		
T4				2		
T6				1		
T12				3		1
T B3264	1		4	1		4
型別不能	1			13		2
B群溶血性レンサ球菌						2
G群溶血性レンサ球菌		1	1		3	6
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			1		4	1
バンコマイシン耐性腸球菌			9		1	11
レジオネラ属菌		1	3		1	6
インフルエンザ菌						6
肺炎球菌			2		5	40
黄色ブドウ球菌				1		
結核菌			2			188
百日咳菌					2	
ボツリヌス菌						1
その他		2	3		16	49
不検出	2	0	3	6	14	40

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成28年10月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成28年10月)

平成28年10月の総アクセス数は、98,195件でした。前月に比べ約7%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*170.6%、保健情報12.1%、食品衛生3.3%、検査情報月報2.6%、生活環境衛生2.6%、薬事0.6%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位 (平成28年10月)

10月のアクセス順位(表1)

表1 平成28年10月 アクセス順位

を見ると、感染症関連の項目が多数を占めています。

7月以降1位が続いている大麻(マリファナ)については、有名人による大麻等の使用が報道等で話題となり、アクセス数の増加に繋がったと考えます。

2位は横浜市感染症情報センターで、3位はクロストリジウム・ディフィシル感染症でした。また、4位にインフルエンザ情報、7位にマイコプラズマ肺炎が入っており、感染の流行に注意が必要です。

順位	タイトル	件数
1	大麻(マリファナ)について	7,820
2	横浜市感染症情報センター	4,375
3	クロストリジウム・ディフィシル感染症について	3,163
4	横浜市インフルエンザ情報	3,095
5	衛生研究所トップページ	2,879
6	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,638
7	マイコプラズマ肺炎について	2,593
8	チメロサルとワクチンについて	2,065
9	感染症発生状況	1,926
10	横浜市感染症発生状況(全数情報)	1,646

データ提供: 市民局広報課

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「横浜市感染症情報センター」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

「クロストリジウム・ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成28年10月）

平成28年10月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 平成28年10月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
带状疱疹について	1	感染症・疫学情報課
乳児予防接種について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成28年10月）

平成28年10月に追加・更新した主な記事は、11件でした(表3)。

表3 平成28年10月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
10月 1日	◆パンフレット◆ B型肝炎はワクチンで予防！	更新
10月 4日	横浜市国保加入者の特定健診結果(問診結果)の経年推移	掲載
10月 4日	横浜市国保加入者の特定健診結果(検査結果)の経年推移	掲載
10月 4日	感染症に気をつけよう(10月号)	掲載
10月13日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成28年)【速報版】	更新
10月13日	【インフルエンザ】例年より早く増加傾向となっています	掲載
10月14日	ヒトパレコウイルス感染症について	掲載
10月20日	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)の検査結果(平成28年)	更新
10月25日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成28年)【速報版】	更新
10月27日	感染症に気をつけよう(11月号)	掲載
10月28日	2016(平成28)年度のインフルエンザワクチンについて	掲載

【 感染症・疫学情報課 】